

「北石狩基幹作物増収プロジェクト」による既存農家の経営支援

～当別町農業の維持に向けて～

活動年次:令和2～4年

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

1 課題設定の背景

水稻・小麦・かぼちゃは町の基幹作物だが、農家戸数は減少傾向で作付面積・産出額の維持が課題であった
～対象農家一覧～



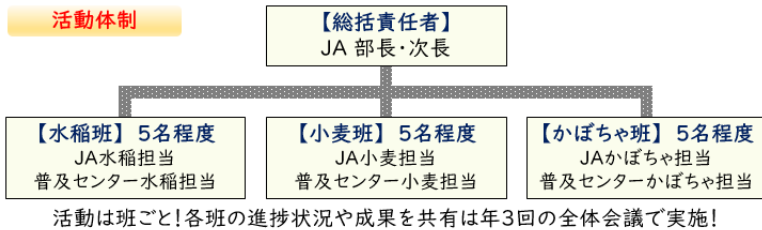
作付面積・産出額を維持するには…

1. 一戸当りの作付面積拡大
2. 新規就農者の確保と育成
3. 既存農家の維持 → JA・普及の支援が不十分

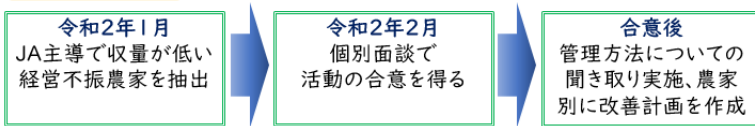
令和2年1月、JAと普及センター合同でチームを結成し、
水稻・小麦・かぼちゃの低収かつ経営不振だが改善意欲
のある農家を対象に徹底的な技術指導を行うことが決定!
「北石狩基幹作物増収プロジェクト」のスタート

	農家名	R2	R3	R4	R5	R6	
水稻	A	→					
	B	→					
	C	→					
	D	→					
	E	→		R3で卒業			
	F	→					
	G	→					
小麦	H	→					
	I	→					
	J	→		R3で卒業			
	K	→					
	E	→					
	B	→					
	L	→					
	D	→					
	M	→					
	N	→					
かぼちゃ	O	→					
	G	→					
	農家名	R2	R3	R4	R5	R6	
かぼちゃ	J	→					
	P	→					
	C	→					

活動体制



対象農家の選定



B・C・D・E・G農家は2品目対象

対象農家1戸に対する支援は原則3年間
※基本技術の定着度により2年間で卒業のケースあり

2 活動の経過

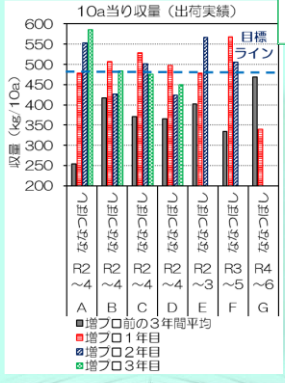
～各班の特徴的な活動～

- 全班** ★ 各班で年間計画を作成する際に調査項目を明確化 PDCAサイクルに基づいた活動を実施
- 水稻班** ★ 本田での水管理が課題の農家 (A・F農家)
⇒ 「水田ファーモ※」で水管理の見える化
※ほ場水位をスマホで確認できる水管理システム
- 水稻班** ★ 育苗置床の凹凸が激しい農家 (A・D農家)
⇒ 置床鎮圧育苗の導入を支援
- 水稻班** ★ 初期生育が悪く、遅れ穂が多い農家 (B農家)
⇒ 側条施肥の割合を高めた実証ほを設置
- 小麦班** ★ FAXやSNSを活用し戸別にタイムリーな情報提供
- かぼちゃ班** ★ 初期生育が悪く、規格内率が低い農家
⇒ 95cm幅マルチの実証ほ設置 (P・C農家)
⇒ 株元摘果の実証ほ設置 (J農家)
- かぼちゃ班** ★ 作業競合が発生している農家 (C農家)
⇒ 水稻班と連携した作業計画の作成支援
- 全体の動き** ★ 2年目から各班にJA若手職員 (20代) を起用
- 全体の動き** ★ 2年目から農家との対応内容と調査結果を記録する
「活動記録シート」を導入、班内・全体会議で共有

～水稻班の年間計画～

2月	◎面談 ・問題点や課題、改善策を共有
3月	◎作業計画の作成 ・他作物との労働競合を回避する計画を作成 ◎は種量変更の提案 ・育苗箱枚数や種子量について農家と協議
4月	◎施肥改善の提案 ・土壌分析結果に基づいた施肥の提案
5月	◎育苗計画進捗状況の確認 ・計画どおりに進んでいるのかを確認 ◎育苗管理方法の確認 ・出芽良否の確認 ・シルバーポリトウなどの使用年数を確認 ・育苗温度や灌水方法の確認 ◎苗質調査と面談 ・育苗管理の良い点と悪い点を農家と検討
6月	◎移植後の確認と面談 ・欠株の有無や移植深、植付本数の確認 ・除草剤散布方法の確認 ・提案施肥の実施有無の確認 ◎生育調査
7月	◎幼形期の確認と面談 ・幼形期の確認方法及び確認の必要性を説明 ・幼形期以降の深水管理方法を説明
8月	◎生育調査と面談 ・6～7月の良かった点と悪かった点を農家と検討 ・病害虫防除方法の確認 ・深水管理実施有無の確認
9月	◎成熟期調査と面談 ◎収穫状況確認と収量調査
10月	◎土壌分析の提案 ・土壌分析の必要性を説明、土壌採取を促す
11月	◎本年度の反省と次年度へ向けた面談 ・一年の振り返りと次年度の課題を整理

水稻班



★7戸中5戸が2カ年以上で目標収量を上回った

「生育に合わせて浅水や深水にする理由がわかった」

水管理の見える化
 ★ 水管理技術を習得
 ★ 水回り回数47%減
 未設置ほ場45回→設置ほ場24回へ (6/20~8/3調査)

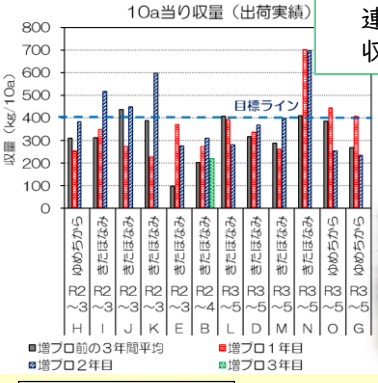


「苗箱剥がしが楽になった」
置床鎮圧育苗による苗の均一化
 ★ 生育ムラが減少
 ★ 軽労化を実感



実証ほを活用した施肥改善
 ★ 初期生育が向上
 ★ 遅れ穂が減少

小麦班

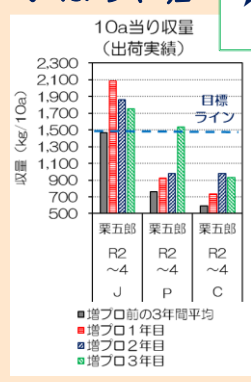


★12戸中5戸が2年連続で増プロ前の収量を上回った



タイムリーな情報発信
 ★ 適期防除や適期追肥へ
 ★ FAX情報をファイルに保管している農家があり提供した情報が有効に使われていることを確認

かぼちゃ班



★全戸で増プロ前の収量を上回った

「収益性が高いなら取り入れてみようかな」

マルチ幅の改善 株元摘果の実施
 ★ 規格内率が向上
 ★ P農家では提案したマルチが定着



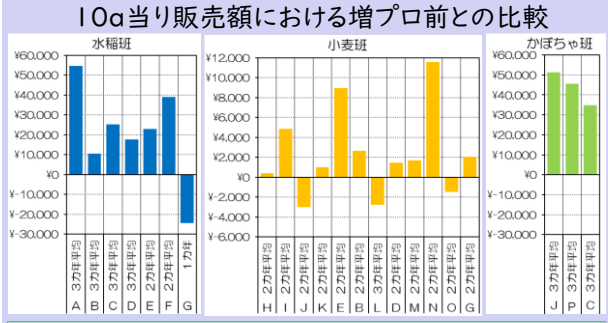
慣行区 マルチ幅65cm 規格内率30.8%
 試験区 マルチ幅95cm 規格内率81.3%

	規格内収量 (kg/10a)	売上 (円/10a)	摘果労働費 (円/10a)	粗収益 (円/10a)	同左比 (%)
株元摘果区	1,693	203,160	6,900	196,260	139
慣行区	1,178	141,360	0	141,360	100

日	1	2	3	4	5	6	7	8
10月	2	3	4	5	6	7	8	9
11月	10	11	12	13	14	15	16	17
12月	23	24	25	26	27	28	29	30
1月	3	4	5	6	7	8	9	10
2月	17	18	19	20	21	22	23	24
3月	3	4	5	6	7	8	9	10
4月	17	18	19	20	21	22	23	24

作業計画の見直し
 ★ 作業競争を回避

全体の動き



7戸中6戸増加 12戸中8戸増加 全戸増加
 ★ 経営改善に寄与できた

増プロメンバーにJA若手職員を起用
 1年目: 係長以上のみ ★ JA若手職員の
 2年目: 各班にJA若手職員 営農指導力が向上

活動記録シートの導入と共有
 2年目の第1回全体会議で「農家の意識変化」と「生育・収量の変化」を結びつけて評価することで統一!
 活動記録シートに以下項目を記載し、班内・全体で共有
 ◆ 提案内容 ◆ 実践有無 ◆ 意識変化 ◆ 生育調査結果

★ 各班が農家に対してどうアプローチしたのかが明確になり、収量増加に至る過程をチーム全員で共有できた
 ★ 活動に参加できない場合でも、活動内容を把握可能に

4 今後の活動

経営不振農家を減らす取組 + 経営不振農家を作らない取組

北石狩基幹作物増収プロジェクト + どうべつ冬季 対象: 就農5年以内の農家 農業経営塾 目標: 基本技術の習得

当別町農業総合支援センター

2つの取組で既存農家を維持